

「高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の学科改編」へのご意見に対する考え方

高知県立安芸桜ヶ丘高等学校の学科改編について、平成29年2月1日（水）から平成29年3月2日（木）まで県民の皆様からのご意見を募集しましたところ、1名の方から1件のご意見をいただきました。

お寄せいただいたご意見とご意見に対する考え方について、下記のとおり取りまとめましたので、公表します。

ご意見をお寄せいただいた方に厚くお礼申しあげます。

項目	番号	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
学科改編について	1	<p>高知県東部の人口は、20年前から半減して、5万人余とされている。特に若者を中心に学童・保育の子供の数は、激減している。この様な人口減の厳しい現状で、かつて隆盛した電気科や工業化学科を改編した、環境エネルギー科の来年度募集停止の報に接し、感無量の思いがする。</p> <p>阪神淡路大震災で兵庫県の3重塔以上の塔13棟は、1塔も倒壊しなかった。古文書や津波の碑柱、ボーリングによる地層の堆積物を調査し、繰り返される巨大地震を予測・予知して、防護を固め未来に備える為に、防災建築コースの設置が必要であります。</p> <p>防災建築コースでは、火事による災害を学び、消防法を学習して消防設備士の取得も目指すことや、給排水設備の基礎的技術を持つ人材の育成をする。また、建築法規・建築史、南海トラフ巨大地震のメカニズム、海溝型地震と津波などについて学習する。気象学、流体力学、ユニバーサルデザインを取り入れた建築教育も行う。</p> <p>防災建築コース（専攻）の教育目標は、日本列島で起こる巨大地震災害・自然災害・火災等から、人間の生活環境を包む建築と都市空間の防災・減災・事故防止の為の技術的基礎的知識と実践力を養い、文化遺産の継承・造形的・芸術的分野も含めて、快適で安全安心な創造型未来社会の実現を目指し、社会に貢献する人材の育成をする。</p> <p>県人口が、2017年1月1日時点で、71万人台になり60年には、39万人になると見込まれているとの報道を聞き、長年の研究や体験・知見から、最も国家的被害の多い被災建築物の人命や財産を守る防災・減災、事故防止になる、新しい防災建築学を学び、社会貢献型人材の育成こそが、喫緊の課題と考えて、誤字・脱字・私的研究も踏まえ、最後の御恩返しをしたいと考えて、提案する。</p>	<p>南海トラフ地震の発生が予測されている高知県において、防災教育や被災後の復興を支える人材の育成は大切なことです。そのため、高等学校段階においては、そういった分野で活躍できるための上級学校への進学や就職などの進路を実現するための基礎学力を身に付けることが重要となってまいります。</p> <p>安芸桜ヶ丘高等学校は工業科と商業科を併置する産業系専門高等学校であり、環境建設科では、建築や土木に関する基礎的な知識と技能の習得や基本的な資格取得を目指した取組を進めております。ご意見をいただきました防災に関する専門的な学習については、上級学校で学習することや就職した事業所で経験を積みながら資格を取得することなどで、防災や復興で活躍できる人材になっていただきたいと考えております。こうしたことから、高校では基礎的な知識や技能を身に付け、その上の段階で専門教育として防災教育を学ぶのが望ましいと考えており、防災に特化した産業系専門学科や専攻の設置は考えておりません。</p> <p>防災教育につきましては、特定の学校や学科ではなく、すべての学校で取り組んでおりますし、今後も、地域との連携も深めながら、取組の充実を図ってまいります。</p>